
はじめに

最近、毎日と言っているほど「A I（人工知能）」という文字が目飛び込んできます。しかもそれは、私たちの日常や仕事場で実際に使える存在として紹介されてきているのです。最新情報を収集して勝手にまとめてくれるA I、報告資料を代わりに作ってくれるA I、自動でプログラム開発してくれるA I、指示通りの画像や動画を作ってくれるA I、二足歩行ロボットを自在に動かすA I、アイディアを生み出して形にするA I、人間の感情に配慮できるA Iなど、その進化は目を見張るものがあります。その変化に驚く一方で、「自分はこの波に乗り遅れているのではないか」と不安を抱く人も多いでしょう。

しかし、いざ「真剣にA Iについて学ぼう」と思い立っても、なかなかうまくいかないのが実情です。ネットを調べればたくさんの記事や動画が見つかりますが、その多くは操作方法や活用事例の紹介にとどまっています。もちろんそれらも役に立つのですが、「A Iはどのような特性を持ち、どんな点は苦手で、人間が強みとして活かせる点はどこなのか」といった本質的な問い

について理解を深めることには、あまり向いていません。応用や判断の幅を広げられるだけの「生きた知恵」を得ることは難しいでしょう。

そのレベルにまで深く理解したい場合、専門的な書籍や研究論文をあたる必要がでてきます。しかし、そこには難解な数式や専門用語が並んでおり、日々を忙しく過ごしている多くの人にとっては敷居が高すぎる内容ばかりです。かといって、表層的な知識ばかり身につけても、AI分野は変化のスピードが非常に速いため、知識があっという間に古びてしまう可能性があります。日々生じる進化によって古びた情報が入り混じる世界の中で、それらを整理し、未来に活かせる情報を把握するのは容易ではありません。

最近では、「ChatGPT（チャットジーピーティー）」のような、投げかけた質問について詳しく解説してくれる便利なAI、いわゆる「生成AI」が誰でも手軽に利用できるようになりました。しかし、基本的には一問一答形式なため、複雑な技術背景を伴うAIについて体系的に理解したいのであれば、自分で回答を取りまとめてかみ砕かなくてはなりません。ただでさえ大変な作業となるうえに、AIから得られた回答には「必ずしも正しいとは限りません」という注意書きが添えられてしまっている始末です。この状況ではAIについて深く理解することはなかなか難しいでしょう。

しかし時代は待ってはくれません。AI導入が進む米国では、すでに雇用がAIに置き換えられつつあることが明らかになっています。日本はまだそこまで至ってはいませんが、それでも一

部の企業はAI導入に成功し、他社と大きく差をつけ始めています。生成AIについて正しく深く知ることは、これから生きるみなさんにとってもはや喫緊の課題なのです。

そうした「知りたいのに届かない」「情報が多すぎて整理できない」という悩みを持つ方々のために本書を企画しました。この本では、最近のニュースを賑わす「生成AI」の中でも、特に近年ビジネスや社会全体に極めて大きな影響を与えている「言語系の生成AI」に限定して解説しています。「言語系の生成AI」は「大規模言語モデル（LLM）」とも呼ばれており、先述したChatGPTなどが有名です。文章作成や会話、要約、翻訳、アイデアの発想など、人間の言語活動を支援・拡張することができ、その汎用性と影響力は他のAIを凌駕しています。いわば生成AIの中心といえるものです。

そこで本書では、この「言語系の生成AI」にターゲットを絞って仕組みや特性、さらに今後私たちがどのように付き合っていくべきかについて、わかりやすくも深いレベルで解説します。単なる利用方法の解説書やハウツー本とは一線を画し、近年の研究論文から紐解いた信頼性のある分析結果をもとに解説しつつ、それでいて専門用語は極力かみ砕くことで、日々の仕事に直接、かつ長く活かせるような知恵としてお届けします。

さらに加えて、「言語系の生成AI」の未来展望についても解説しています。生成AIが持つ特性を鑑みると、世にあるさまざまな機能や能力を「ツギハギ」することで、単なる便利なツールという枠を超えた、より大きな存在へと進化する可能性を秘めていると筆者は考えています。

本書ではそのさまを「フランケンシュタインの怪物」と形容しています。それはどういうことなのか、どんな存在なのか、それとどう向き合うべきなのかについて知ることは、これから生きる人たちにとって大切なことだと考えています。本書を読み進めることで、みなさんが「怪物を飼いならす」方法やそのための知恵を手に入れ、変化の激しい時代の中で自信を持って歩んでいけるようになることを願っています。

技術の粋が盛り込まれた「言語系の生成AI」について、わかりやすく解説することはもちろん容易なことではありません。しかし筆者の会社は、古くからAI業界に携わり、活かせるAIをさまざまな企業に導入するお手伝いをしてきた歴史を持っています。その対象業種も幅広く、金融業界を始めとして、商社やSNSサービス、化学や航空、さらには保険、医療、EC・通販などといったさまざまな業界を代表する企業に対し、AI構築や支援に長年取り組んできました。さらに、AIの性質を体系的にまとめた拙著『AIにできること、できないこと——ビジネス社会を生きていくための4つの力』（2019、日本評論社）は何度も重版されるほど好評をいただいています。こうして培われた知識をもとに執筆した本書は、きっとみなさまのお役に立てるものと思います。ぜひ最後までお付き合いいただければ幸いです。